

アイヌの人たちの歴史・文化 クナシリ・メナシの戦い

戦いに至る背景

シャクシャインの戦い後、和人のアイヌの人たちに対する支配は一段と強化されサハリンや千島にも及ぶようになりました。

商場知行制^{*1}から場所請負制^{*2}に移行後、商人の飛騨屋久兵衛は、松前藩への莫大な貸金の見返りとして国後島、メナシ(根室館内目梨郡)の場所を請け負いましたが、場所経営に不慣れなこともあってアイヌの人たちを酷使し、早急に利益を上げようとしていました。中には、アイヌの人たちに暴力・脅迫・性的暴力などの数々の非道を行う和人もいました。アイヌの人たちは越冬用の食料も確保できず冬には餓死するものが出る悲惨な状態でした。このままでは生きていけないと、不安と動揺が広がり、いつ何が起こっても不思議でないという状況でした。

戦いの経過

1789年(寛政元年) 場所の番人の横暴に耐えかねて、国後、目梨郡のアイヌの人たちは立ち上がり、和人71人が殺されました。松前藩は直ちに鎮圧と取り調べのため軍を送りましたが、すでにアイヌの人たちは、長老たち(ツキノエ)に説得され、戦いをやめていました。

ところが取調中に不穏な動きがみられたため、蜂起の中心となった指導者アイヌ37人が処刑され、さらに長老が松前藩に人質として連行されました。



<ツキノエ>

戦い後の影響

この戦いは、結果的にはアイヌの人たちの敗北に終わり、松前藩の力がクナシリやメナシ地方に及ぶようになり、以後、大規模な武力蜂起が起きないような関係ができあがりました。

幕府は、蝦夷地の太平洋側<東蝦夷>を直轄地とし、続いて日本海側<西蝦夷>も幕府の直轄地とされ、松前藩は国後島や道東のアイヌの人たちを制圧し、その支配下に組み込みました。

政治的にも経済的にも従属関係となり、和人支配下で働かされるということが日常的になってきました。そしてこの戦いが、アイヌの人たちの武力による最後の戦いとなったのです。



<アイヌの人たちのたたかひのようす>

- *1 商場でアイヌの人たちとの交易権を家臣に与え、それを給与とする制度
- *2 商人が知行主に上納金(運上金)をおさめ、そこでの取引を請け負う制度

【出典】『郷土の歴史シリーズ1 クナシリ・メナシの戦い』 根室歴史研究会
『アイヌの歴史と文化 1』榎森 進 編 アイヌの歴史と文化刊行促進協議会

アイヌ語 豆知識

今回は、アイヌ語で家族を表す言葉の一例を紹介します。

エカシ(祖父)	フチ(祖母)	マツ(妻・女性)	ク(私)
ミチ(父)	ハポ(母)	ホク(夫)	オッカヨ(男性)
ユポ(兄)	サポ(姉)	アチャポ(叔父)	マッカチ(女の子)
アク(弟)	マタク(妹)	ウナラペ(叔母)	ヘカチ(男の子)

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂

檜山管内の各町における小学校社会科の副読本には、「地名の由来」や「コシャマインの戦い」を中心にアイヌの人たちの文化や歴史について記載しています。

上ノ国町の副読本の内容を紹介します

『ふるさと上ノ国の歴史を知る』(P122～P159)の大單元において、地域の歴史を記載しています。その中でアイヌの人たちの暮らしについて詳しく記載しています。その一部を紹介します。

794年頃



【アイヌ語の地名】の記載から

「石崎」は地名を比石といいます。アイヌ語ピツウシ(石の多い所)が語源です。「原歌」はアイヌ語でパラオタ(平らな浜・広い砂浜)から原歌と書くようになりました。アイヌの人たちは、自然の恵みに感謝しながら、野山の動物や植物を食料としていました。

1443年頃



【和人がわたってきた】の記載から

長い間アイヌの人たちの暮らしが続いていたえぞが島にも、しだいに和人が入ってくるようになりました。…今から500年ほど前には、東北地方の南部氏との争いに敗れた安藤盛季がえぞが島に逃れてきました。…こうして、アイヌの人たち中心の暮らしの中に和人が入り込むようになってきたのです。

1456年頃



【和人とアイヌとの争い】の記載から

和人がふえることは、一方でアイヌの人たちの生活をあっばくすることになりました。1456年、志のり村(箱館)の鍛冶村で、アイヌの少年が注文したマキリ(小刀)の切れ味やねだんのこと口論となり、和人の鍛冶屋がマキリで少年を刺し殺してしまいました。…「コシャマインの戦いに発展」

1512年頃



【夷王山の墳墓群】の記載から

コシャマインの戦いから、半世紀ほどたった1512年、アイヌの人たちは、再度立ち上がり、箱館や志のりをせめおとし、さらに、松前の大館もせめおしました。

1551年頃

【アイヌとの和睦】の記載から

上ノ国と知内を和人とアイヌの人たちとの境界とし、本州から来る商人のおさめる税金の一部をアイヌの人たちにも分け与える約束をしました。これ以後、和内地でのアイヌとの争いはなくなりました。

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教材等の紹介

アイヌの人たちの歴史や文化について、広く一般の人々の理解の促進を図るため、次のような小冊子が発行されています。

1 『パイェアン ロ ふれてみようアイヌの文化』

アイヌ文化を直接、見て、触れて、学ぶことのできる体験学習メニューのある施設や団体とアイヌ文化に関する資料を展示している博物館などを掲載しています。

<(財)アイヌ文化振興・研究推進機構 発行>

2 『アイヌの人たちとともに - その歴史と文化 - 』

アイヌの人たちの歴史や文化、言語や生活様式(信仰、衣食住、芸能等)について、正しく理解できるよう、コンパクトにまとめられています。

<(財)アイヌ文化振興・研究推進機構 発行>

